

**高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した
建築設計標準**

令和7（2025）年5月

国 土 交 通 省

第3章 ソフト面の対応

1. ハードとソフトの相互補完 -----	211
1.1 高齢者、障害者等のニーズへの理解とハード・ソフト両面の支援	
1.2 従業員等に対する教育訓練の実施	
2. 事前の情報提供・予約時の工夫 -----	215
3. 利用者特性に応じたソフト面の対応 -----	217
3.1 コミュニケーション	
3.2 備品等の貸出し	
4. 火災や地震等の非常時の対応 -----	232

写真の出典

写真の出典 -----	235
-------------	-----

付録

1. 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律の概要 -----	付-1
2. 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律及び関係政省令・告示 ---	付-29
2.1 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律	
2.2 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律施行令（抄）	
2.3 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律施行規則（抄）	
2.4 高齢者、障害者等が円滑に利用できるようにするために誘導すべき建築物特定施設の構造及び配置に関する基準を定める省令	
2.5 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律施行令 第 20 条に規定する標識に関する省令	
2.6 移動等円滑化の促進に関する基本方針	
2.7 建築物に関する告示	
3. 便所、劇場等の客席、駐車場に係るバリアフリー基準の見直しについて -----	付-140
4. 床の滑り -----	付-165
5. 高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準に関する フォローアップ会議及びサイトラインの確保等に係る検討 WG について -----	付-167

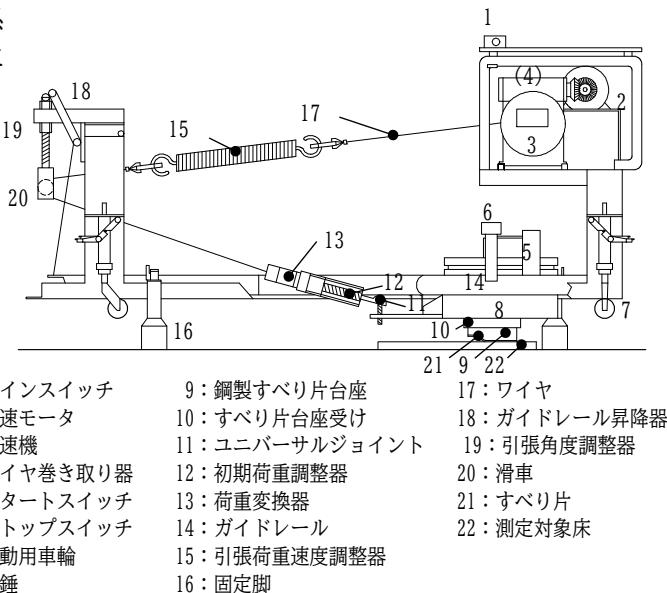
4. 床の滑り

- 床の材料及び仕上げは床の使用環境を考慮した上で、高齢者、障害者等が安全かつ円滑に利用できるものとする。

4.1 履物着用の場合の滑り

4.1.1 評価指標

- 床の滑りの指標として、JIS A 1454（高分子系張り床材試験方法）に定める床材の滑り性試験によって測定される滑り抵抗係数（C.S.R）を用いる。



JIS A 1454に準拠している滑り試験機の例

4.1.2 評価方法

- 床の材料・仕上げは、当該部位の使用条件を勘案した上で、表-1の滑り抵抗係数の推奨値（案）を参考にして適切な材料・仕上げとすることが望ましい。

留意点：滑り抵抗係数の推奨値（案）

- （社）日本建築学会材料施工委員会内外装工事運営委員会 床工事WG『床の性能評価方法の概要と性能の推奨値（案）』（2008年6月）では、履物着用・素足・斜路及び、階段（踏面と段鼻をあわせた評価）・杖の滑り等について推奨値（案）を示している。

■ 表-1 履物着用の場合の滑り 日本建築学会※の推奨値（案）

床の種類	単位空間等	推奨値（案）
履物を履いて動作する床、路面	敷地内の通路、建築物の出入口、屋内の通路、階段の踏面・踊場、便所・洗面所の床	C.S.R=0.4以上
	傾斜路（傾斜角：θ）	C.S.R- $\sin \theta$ =0.4以上
	客室の床	C.S.R=0.3以上

（※（社）日本建築学会材料施工委員会内外装工事運営委員会 床工事WG『床の性能評価方法の概要と性能の推奨値（案）』（2008年6月））

4. 床の滑り

4.2 素足の場合の滑り（※ここでは大量の水や石鹼水などかかる床を想定）

4.2.1 評価指標

- 床の滑りの指標として、JIS A 1509-12（陶磁器質タイル試験方法－第12部：耐滑り性試験方法）に定める耐滑り性試験方法によって測定される素足の場合の滑り抵抗値（C.S.R・B）を用いる。

4.2.2 評価方法

- 床の材料・仕上げは、当該部位の使用条件を勘案した上で、表－2の滑り抵抗値の推奨値（案）を参考にして適切な材料・仕上げとすることが望ましい。

留意点：床の材料・仕上げ選択時の留意点

- 材料・仕上げのC.S.R値等を確認するときには、床の使用条件（下足（靴、運動靴、サンダル等）・上足（靴下・スリッパ等）・素足）や、雨掛かり、ほこり・水分・油の有無等）を考慮し、試験時の滑り片、試験片の表面状態を確認することが望ましい。
- 階段の滑りには、踏面だけでなく段鼻の滑りも大きく影響するため、滑りにくい段鼻材を選ぶことが望ましい。
- 特に高齢者等にとっては、床を滑りにくくしすぎると、つまずき等の原因となることがあることについても留意することが望ましい。
- 滑りに配慮した材料・仕上げを用いることとあわせて、水溜まり等ができないよう、水はけ（水勾配の確保や床下地の不陸調整）にも留意することが望ましい。
- 床の滑りは、歩行や清掃等に伴う摩耗により、竣工時の状況から変化することに留意して、床材料や防滑保護材を選択することが望ましい。

留意点：大量の水や石鹼水などかかる床以外における素足の場合の滑り

- 一般に、素足で歩く可能性はあるが大量の水や石鹼水などかかる床では、素足より靴下の方が滑りやすい場合が多いことから、すべり片を靴下としたC.S.R値で安全側に評価できる可能性が高い。

■ 表－2 素足の場合の滑り 日本建築学会※の推奨値（案）

床の種類	単位空間等	推奨値（案）
素足で動作し 大量の水や 石鹼水などが かかる床	浴室（大浴場）、プールサイドシャワー室・更衣室の床	C.S.R・B=0.7以上
	客室の浴室・シャワー室の床	C.S.R・B =0.6以上

（※（社）日本建築学会材料施工委員会内外装工事運営委員会 床工事WG
『床の性能評価方法の概要と性能の推奨値（案）』（2008年6月））

4.3 滑りの差

- 突然滑り抵抗が変化すると滑ったりつまずいたりする危険が大きいため、同一の床において、滑り抵抗に大きな差がある材料の複合使用は避けることが望ましい。

留意点：視覚障害者誘導用ブロック等の材料

- 金属製の視覚障害者誘導用ブロックは、雨滴によりスリップしやすいので、敷地内の通路や建築物の出入り口等に使用する際には十分配慮することが望ましい。
- グレーチングやマンホール蓋も、雨滴によりスリップしやすいので、敷地内の通路や建築物の出入口等に使用する際には、滑りに配慮されたものを使用する等、十分配慮することが望ましい。

留意点：建築物の利用時における適切な床の滑りの維持・確保

- 床の滑りは、歩行や清掃等に伴う摩耗により、竣工時の状況から変化することに留意して、メンテナンスを行うことが望ましい。
- 建築物の床を改修する場合においても、滑り抵抗係数が各推奨値（案）を満足する材料、仕上げを採用することが望ましい。